

[別紙様式①]

平成22年度「学校教育金沢モデル」実践研修拠点校形成事業 報告書

学校名 [ 金沢市立明成小学校 ]

	1. 22年度の取組内容とその結果	評価	2. 成果と課題	3. 23年度以降の方向性
人材育成 (OJT体制の充実)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師コミュニティ「明成塾」の継続 毎週水曜日16:15～16:45に実施</li> <li>・理科支援員の活用</li> <li>・理科・生活科実技研修会による実験操作技能の向上、 教材研究を基にした教材開発、教材集作成と発信</li> </ul>	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○「明成塾」を4月より開始し、毎週開催できた</li> <li>○「明成塾」に初任研拠点校指導教員の年間を通しての参加があった</li> <li>○テーマを設けて「明成塾」を毎週継続してきた結果、教材研究が 深まり、組織として授業力が向上した</li> <li>○専門性のある理科支援員から、準備と同時に教材解説を受け、教材 研究も深まり、自信をもって授業に臨むことができた</li> <li>▲理科・生活科実技研修会の講師に若手教員の起用が少なかった</li> <li>○理科・生活科教材集(CD)を作成できた</li> <li>○アドバイスブックに取組を報告できた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■OJT推進校の継続</li> <li>・「明成塾」の継続</li> <li>・授業ビデオの蓄積と活用</li> <li>・理科支援員の活用による教材研究の継続</li> <li>・理科・生活科実技研修会の講師育成</li> <li>・理科・生活科教材集に開発教材の追加</li> </ul>
特色ある教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PISA型読解力を育む理科・生活科の授業モデルの確立と発信 クリティカルシンキングによる論理的思考力育成のための 単元構成(理科) 気付きの質を高めるための単元構成(生活科) 表現力の育成(話型指導とノート指導)</li> <li>・第16回公開研究発表会の開催 (第43回全国小学校理科研究大会石川大会 会場校)</li> <li>・校長会、主幹教諭・教務主任研修会での情報提供</li> </ul>	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○クリティカルシンキングを取り入れた活用場面を設定することにより、 追究によって得られた知が強化、一般化、再構成された(理科)</li> <li>○「見つける・比べる・たとえる」学習活動が、気付きの質を高め、 児童の交流を深めることができた(生活科)</li> <li>▲得られた知から「更にやってみよう」と自ら発想する子を増やす</li> <li>○表現力育成に向けて、共通理解して話型とノート指導に取り組めた</li> <li>▲各種研究論文への応募はできなかったが、新聞や教育雑誌に取組を 多数掲載することができた</li> <li>○第43回全国小学校理科研究大会石川大会の公開発表を通して、研究 成果や取組を発信できた(H22.10.22)</li> <li>○校長会、主幹教諭・教務主任研修会において成果報告ができた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■理科教育研修拠点校の継続</li> <li>・PISA型読解力の育成を目指した授業モデルの確立</li> <li>・自ら知の更新をする子の育成</li> <li>・科学的思考力・表現力の育成</li> <li>・各種研究論文への応募</li> <li>・第17回公開研究発表会の開催(H23.11.2)</li> <li>・ユネスコスクールへの加盟と実践</li> </ul>
学校評価の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係者評価委員会の実施と取組成果の発信 年間3回の実施(5月、9月、3月) 教育活動の参観(授業及び主な行事)</li> <li>・スーパーバイザーによる評価を基にした学校研究の改善 年間4回の評価と指導の実施</li> <li>・授業力向上外部評価委員による学校評価の実施 国語、算数、理科、生活科について年間2回実施 個人評価・指導及び全体評価の実施</li> <li>・第三者評価の実施</li> <li>・金沢大学大学院教育学研究科による授業分析と評価</li> </ul>	▲	<ul style="list-style-type: none"> <li>○前年度の反省を基に学校関係者評価委員会を中間報告を含め、年3 回実施し、改善点について協議できた</li> <li>▲家庭学習の習慣化、健康についての課題を保護者と連携し取り組む</li> <li>○国立教育政策研究所 教育課程研究センター基礎研究部長 角屋重 樹氏に評価と指導を受け、先進的な学校研究の推進ができた</li> <li>○授業力向上外部評価委員による全体評価(4段階評価)が、前期より 後期が高くなった(授業準備、学習規律、授業設計、指導技術等) (国語 3.0→3.9、算数 3.2→3.8、理科 3.0→3.2、生活 2.8→3.6)</li> <li>○第三者評価委員より、取組に関して好評であった</li> <li>▲目指す児童像の共通理解、評価項目のレベルアップについて検討</li> <li>○地元の金沢大学大学院教育学研究科による授業分析と評価を活用で きた(5年算数、7月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外部人材による学校評価実践校の継続</li> <li>・学校自己評価の内容と達成度基準の改善、取組の成 果の発信</li> <li>・スーパーバイザーによる評価を基に学校研究の改善 と情報発信</li> <li>・授業力向上外部評価委員による全体評価の共通理解 と授業改善</li> <li>・金沢大学との連携の継続</li> <li>・金沢大学での講義において取組紹介の継続</li> </ul>